

1968年 大会記録

国際

◇全米選手権（4月11日～14日、米国・リンカーン）

《フリースタイル》▼フライ級 星野つとむ＝2位、▼バンタム級 八田忠朗（米国在住）＝2位、▼フェザー級 市口政光（NYAC）＝優勝、中村ふみあき（NYAC）＝4位、▼ミドル級 丸山充信（パシフィック大）＝三失

《グレコローマン》▼フライ級 阿部進（関大）＝2位、▼バンタム級 山本郁栄（日体大）＝優勝、▼ライト級 松浪健四郎（日体大）＝4位

◇メキシコ五輪（10月17～25日、メキシコ・メキシコシティ）

《フリースタイル》▼フライ級 中田茂男（自衛隊）＝優勝、▼バンタム級 上武洋次郎（群馬県協会）＝優勝、▼フェザー級 金子正明（自衛隊）＝優勝、▼ライト級 堀内岩雄（日大教）＝五失、▼ウエルター級 佐々木龍雄（自衛隊）＝4位、▼ミドル級 遠藤茂（遠藤商会）＝四失、▼ライトヘビー級 川野俊一（自衛隊）＝三失、▼ヘビー級 磯貝頼秀（千葉・習志野高）＝二失

《グレコローマン》▼フライ級 石黒修一（日清工業）＝二失、▼バンタム級 桜間幸次（自衛隊）＝5位、▼フェザー級 藤本英男（日体大助）＝2位、▼ライト級 宗村宗二（大谷運輸）＝優勝、▼ウエルター級 田代俊郎（中大職）＝二失、▼ミドル級 開健次郎（自衛隊）＝二失、▼ライトヘビー級 長尾猛司（自衛隊）＝三失、▼ヘビー級 磯貝頼秀（千葉・習志野高）＝二失

国内

◇メキシコ五輪選考第一次最終選考会（5月1日～26日、東京・中央区体育館）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 勝村靖夫（日体大助）、▼バンタム級 上武洋次郎（群馬県協会）、▼フェザー級 森田武雄（群馬・館林高教）、▼ライト級 佐藤明弘（大東大教）、▼ウエルター級 佐々木龍雄（自衛隊）、▼ミドル級 遠藤茂（日大）、▼ライトヘビー級 川野俊一（自衛隊）、▼ヘビー級 妹尾武三郎（専大）

《グレコローマン》▼フライ級 石黒修一（日清工業）、▼バンタム級 桜間幸次（自衛隊）、▼フェザー級 藤本英男（日体大助）、▼ライト級 宗村宗二（大谷運輸）、▼ウエ

ルター級 岡唯勝（国士舘大）、▼ミドル級 開健次郎（自衛隊）、▼ライトヘビー級 服部勤（日体大）、▼ヘビー級 矢田静雄（日体大）

◇西日本学生春季リーグ戦（5月11日～6月4日、大阪府立体育会館別館ほか）

《順位》[1] 関大（9季連続25度目）、[2] 関学大、[3] 同志社大、[4] 近大、[5] 名城大、[6] 名商大、[7] 桃山学院大、[8] 福岡大、[9] 中京大、[10] 広島修道大

◇東日本学生リーグ戦（6月1～3日、東京・日大講堂）

《順位》[1] 日大（2年ぶり2度目）、[2] 日体大、[3] 中大、[4] 専大、[5] 早大、[6] 東洋大、[7] 明大

◇全日本社会人選手権（6月15～16日、東京・青少年総合センター）

《実業団対抗戦優勝》自衛隊A、《クラブ対抗戦優勝》川口クラブ

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 中西一郎（慶大OB）、▼バンタム級 中田茂男（自衛隊）、▼フェザー級 福田富昭（日本スタミノン）、▼ライト級 佐藤（日野自動車）、▼ウェルター級 山田（東京ダイハツ）、▼ミドル級 佐々木（神奈川ク）、▼ライトヘビー級 新井（川口ク）、▼ヘビー級 堀川康隆（東京ダイハツ）

《グレコローマン優勝者》▼フライ級＝出場なし、▼バンタム級 藤浦（大阪プール学院）、▼フェザー級 岩室好純（日本スタミノン）、▼ライト級 高橋（和歌山県教委）、▼ウェルター級 桜井（自衛隊）、▼ミドル級 藤井照雄（群上紡績）、▼ライトヘビー級 小島（小泉ク）、▼ヘビー級 山口勇雄（自衛隊）

◇西日本学生選手権（ ）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 毛利祥二（同志社大）、▼バンタム級 大治一雄（近大）、▼フェザー級 高崎優（関学大）、▼ライト級 長井暁（関大）、▼ウェルター級 倉橋裕（関大）、▼ミドル級 笹尾五十六（関学大）

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 水野良則（近大）、▼バンタム級 平池雄三（関大）、▼フェザー級 菅沼啓安（関学大）、▼ライト級 富田昭仁（同志社大）、▼ウェルター級 長井暁（関大）、▼ミドル級 笹尾五十六（関学大）

◇インターハイ（7月29日～8月1日、広島・府中中）

《学校対抗戦》[1] 東京・京北（3年ぶり2度目）、[2] 秋田・五城目、[3] 群馬・館林、青森・八戸電波

《個人戦優勝者》▼52kg級 塚本譲(秋田・五城目)、▼55kg級 町田康(埼玉・飯能)、▼58kg級 佐竹秀俊(北海道・士別)、▼61kg級 和田喜久夫(新潟・巻農)、▼65kg級 大中哲文(徳島・穴吹)、▼69kg級 山口和男(長崎・大村工)、▼73kg級 谷村正春(秋田・五城目)、▼73kg以上級 磯貝頼秀(千葉・習志野)

◇メキシコ五輪選考最終選考会(8月1日～25日、東京・中央区体育館)

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 中田茂男(自衛隊)、▼バンタム級 上武洋次郎(群馬県協会)、▼フェザー級 金子正明(自衛隊)、▼ライト級 堀内岩雄(日大教)、▼ウェルター級 佐々木龍雄(自衛隊)、▼ミドル級、▼ライトヘビー級 川野俊一(自衛隊)、▼ヘビー級 磯貝頼秀(千葉・習志野高)

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 石黒修一(日清工業)、▼バンタム級 桜間幸次(自衛隊)、▼フェザー級 藤本英男(日体大助)、▼ライト級 宗村宗二(大谷運輸)、▼ウェルター級 田代俊郎(中大職)、▼ミドル級 開健次郎(自衛隊)、▼ライトヘビー級 長尾猛司(自衛隊)、▼ヘビー級

◇全日本学生選手権(9月10～14日、東京・世田谷区総合体育館)

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 内田史郎(東洋大)、▼バンタム級 藤田義郎(専大)、▼フェザー級 阿倍巨史(専大)、▼ライト級 林富夫(日体大)、▼ウェルター級 吉田敏忠(日大)、▼ミドル級 佐藤嘉信(明大)、▼ライトヘビー級 正木照夫(拓大)

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 渡辺正明(法大)、▼バンタム級 沢内和興(専大)、▼フェザー級 田中修(日大)、▼ライト級 高橋義輝(専大)、▼ウェルター級 永野要祐(国土館大)、▼ミドル級 谷公市(国土館大)、▼ライトヘビー級 五米龍之(中大)

◇国体(10月2～5日、福井・金津町体育館)

《一般フリースタイル優勝者》▼フライ級 安元(茨城)、▼バンタム級 中島俊美(岐阜)、▼フェザー級 森田武雄(群馬)、▼ライト級 吉田敏忠(愛知)、▼ウェルター級 伊藤勝春(千葉)、▼ミドル級 野尻修一(富山)、▼ライトヘビー級 平塚博(東京)、▼ヘビー級 石川忠男(千葉)

《一般グレコローマン優勝者》▼フライ級 月岡金四郎(神奈川)、▼バンタム級 小泉正喜(埼玉)、▼フェザー級 加藤隆三(和歌山)、▼ライト級 野口正明(新潟)、▼ウェルター級 藤本喜明(埼玉)、▼ミドル級 岡山忠博(山口)、▼ライトヘビー級 波山

竜美（岐阜）、▼ヘビー級 服部勤（岐阜）

《高校優勝者》▼52kg級 渥美敏範（宮城）、▼55kg級 渡辺徳成（新潟）、▼58kg級 佐竹秀俊（北海道）、▼61kg級 和田喜久夫（新潟）、▼65kg級 松本信広（宮城）、▼69kg級 熊谷道牢（北海道）、▼73kg級 斎藤真（山形）、▼+73kg級 箕越秀美（広島）

※少年はフリースタイルのみ

◇東日本学生秋季新人戦（10月17～18日、東京・世田谷区総合体育館）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 加藤喜代美（専大）、▼バンタム級 加藤光利（法大）、▼フェザー級 桜井光男（国士舘大）、▼ライト級 渡辺正孝（早大）、▼ウェルター級 長谷川恒夫（早大）、▼ミドル級 佐藤善信（明大）、▼ライトヘビー級 山下光人（国士舘大）

※フリースタイルのみ

◇全日本学生王座決定戦（11月1～2日、東京・世田谷区立体育館）＝決勝成績

日大○ [8-2] ●専大

※日大は4年連続5度目の優勝

◇東日本学生グレコローマン対抗戦（11月17日、東京・青少年総合センター）＝決勝

成績

日体大○ [5-1] ●専大

※日体大は2年連続2度目の優勝

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月22～24日、大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 関大（10季連続26度目）、[2] 近大、[3] 関学大、[4] 同志社大、[5] 名城大、[6] 中京大、[7] 福岡大、[8] 桃山学院大、[9] 名商大、[10] 広島修道大

◇全日本選手権（69年2月27日～3月2日、大阪・東淀川体育館）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 加藤喜代美（専大）、▼バンタム級 中島俊美（日体大）、▼フェザー級 藤本英男（日体大教）、▼ライト級 渡辺正孝（早大）、▼ウェルター級 佐藤明弘（大東大教）、▼ミドル級 三戸豊治（専大）、▼ライトヘビー級 正木照夫（拓大）、▼ヘビー級＝出場なし

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 平山紘一郎（自衛隊）、▼バンタム級 七尾秀樹（国士大）、▼フェザー級 藤本英男（日体大教）、▼ライト級 荒木祐治（日体大）、▼ウェルター級 岡唯勝（国士大教）、▼ミドル級 谷公市（国士大）、▼ライトヘビー級 矢

田静雄（日体大）、▼ヘビー級＝出場なし